

序章

発展途上国の企業、産業、市場研究会 開催の趣旨 - 新しい産業発展論をめざして -

渡邊 真理子

要約：本報告書の下敷きとなった、発展途上国の企業、産業、市場研究会の発足趣旨を整理し、1年間の活動の内容とその成果の一部を紹介する。

キーワード： 地域研究と経済学の発展的融合の可能性

1. はじめに

「発展途上国」がどのように経済構造を変化させれば、「先進国」になるのか。そのために市場メカニズムをどのように利用し、経済の発展のエンジンとなる企業や産業を育てるのか。こうした論点については、政策提言の現場では繰り返し求められてきたが、基礎研究的な事例研究、理論研究およびそれに基づいたデータによる確認とは、有機的には関連していなかった。一方、これまでの開発経済学は、主に農業や農民の行動、衛生、リスクの回避など、発展途上国における弱者の問題が中心的な研究対象となっていたが、どのようにしたら産業、企業が発展し、発展途上国の経済が離陸できるのか、については、実践的な知見があまり生まれていない。

2. 本研究会の概要

アジア経済研究所には、こうした発展途上国の産業研究、企業研究のフィールドワークを重ねてきた研究者が蓄積している。こうした研究者は、主に経営学、社会学の枠組みの範囲で分析を行ってきた。アジ研の伝統的な産業・企業研究は、どちらかというと経営

史・経営学のアプローチに近い手法がとられてきた。丹念に資料とインタビューを重ねて事実を掘り起こし、その姿を描こうという姿勢で、非常に競争力のある研究を行っている。しかしながら、こうした手法は、企業が直面している需要、競争の性質との関係、特に消費者の厚生への影響への把握という視点が弱い。また、一企業の発展と産業全体、もしくは経済全体の発展は、必ずしも同義ではないので、産業、経済発展へのインプリケーションが曖昧なことが多い。

一方、発展途上国の企業と産業については、組織的な情報やデータがすぐに使うことのできるような形では用意されていない。先進国において基本情報に類する情報もデータベース化はされておらず、集計的なデータのみで計量的に分析するには情報が不十分であり、経済学的・計量的な手法は隔靴搔痒の感が強くあったのは否めない。現在、経済学の分野、産業組織論を中心に、企業や供給者の行動を分析する枠組みが整いつつある。純粋な経済学の分野でも、それまで企業をブラックボックス化したままでの分析に限界があることはかねてから意識されてきた。聞き取り調査を重視する動きが始まり、労働経済学、産業組織論の分野ではこうした研究費がつくようになっている。

これまで経済学の分野から企業活動の分析をする研究者は、往々にして、実際には複雑な環境、制度のもとで活動している経済主体の動きをきちんと把握することなく、誘導系にデータを当てはめて結果と称することが多かった。特定の状況に関するモデルの構築とそれを用いたデータの分析という、経済学の中での手法の融合が進んでいる。今後、経済学の分野での企業・産業分析は、モデル化する作業などをしないままのデータ分析から、きちんとした実態把握をした上で、モデル化し、その上でデータ分析を行うという研究手法のアップグレードが進む可能性がある。

アジ研の研究者は、こうした制度、環境の理解に関しては、情報量、情報へのアクセス、これまでの実態把握の蓄積から、欧米の研究者に比べ一日の長がある。この組織的な蓄積を最大限利用し、より有効な研究を行う下地が整いつつある。現状は、具体的な産業別、手法別に、個別の関心に分かれて、個別に研究を重ねてきている。本研究会により、こうした産業、手法などの区別を超えて、何か共通する概念を生み出せるのか、それぞれの手法の優位性を用いて、他を補うかたちでの、より有効な成果を生み出す共同研究の可能性があるので、どうかを探る交流の場とする。

さらに、綿密な実態調査、それを反映した分析枠組みの構築、そしてデータによる分析という研究手法は、政策的な提言につながる枠組みでの分析が可能になり、理論的な基礎に基づいた政策提言が可能になる可能性が強い。

3. 研究会の概要と各章の構成

以上のようなモチベーションから、産業・企業を対象とする研究者の交流の場として、

基礎理論研究会を組織した。すでに触れたように、同じように途上国の企業・産業を研究対象にしても、対象とする地域、トピックや手法によって、個別に研究をし、相互の交流が欠けていた面が否めない。より有効な共同研究の可能性を探るために、本年度は、各メンバーがそれぞれの現在進行形のトピックを報告することを基本とした。これに加え、外部研究者を招聘による報告、共通する関心の有るトピックについての「セミナー未満の会」、研究のタネの段階にあるトピックについて報告し、分析手法、問題設定などについての批評を受ける「研究計画発表会」などを開催した。その報告の全容を附録として記録した。

本報告書は、この一年の活動で報告された研究の一部である次の論文をまとめたものである。第1章と第2章は、ややマクロ的な観点から産業構造の最適化、産業発展の動員について分析したものである。第1章は、インドネシアの発展戦略をめぐって、産業構造をどのように調整していくべきか、を論じた。スハルト時代と異なり、第2章は、これまで東南アジアの成長のエンジンのひとつとなってきた、外資系企業の進出戦略を推定し、中国の受入市場としての登場が代替関係にあるASEANへの投資に影響を与える一方、CLMVについては、競合関係がないことを示している。

第3章と第4章は、よりミクロ的なフォーカス、企業内/企業間のインターアクションから生まれるイノベーションに注目したものである。第3章は、台湾の事例を念頭におき、企業間の分業に関する論点の整理をしたものである。イノベーションを「企業にとって新しい製品デザインや製造過程を習得し、使いこなせるようになる過程」とする定義を批判し、「既存の技術、既存の製品と市場の結びつき、のいずれかの競争関係を変え、新たな付加価値を作り出す経済行為」と定義づけ、後発工業国におけるイノベーションを考察する際の論点を整理している。第4章は、企業間のエンジニアの受入に焦点をあてて産業の高度化への貢献について、計量的実証分析を行っている。

第5章と第6章は、企業能力形成、競争戦略をいかに分析するかを考察したものである。第5章は、企業レベルの能力形成を分析するアプローチとして、イベント分析を用いた縦断的事例研究という方法を紹介する。第6章は、企業の競争戦略を計量的に把握する手法として、企業の価格・コスト差を、需要関数の推定から計算する手法を紹介し、このマージンがどのような企業戦略と関係があるのかを検証する手法を整理している。

附録：基礎理論研での報告リスト

日時： 5月13日（木曜日） 12時15分-14時

場所： C21 会議室

論題： パネルディスカッション「方法論の枠を超えて：産業・企業・市場についてのより良い実証研究」

第一部： 「途上国の産業・企業・市場研究に取り組むということ」

第二部： 「新しい産業発展論の構築をめざして - 適切な問題とキャッチボール - 」

パネリスト： 川上桃子、佐藤幸人、高橋和志、土屋一樹、藤田麻衣、星野妙子、山形辰史、渡邊真理子

司会： 町北朋洋

日時： 6月11日（金曜日） 12時半-13時半

場所： C23 会議室

論題： *An Empirical Analysis of Entrant and Incumbent Bidding in Electric Power Procurement Auctions*

氏名： 鈴木彩子（早稲田大学）

日時： 6月11日（金曜日） 13時45分-14時45分

場所： C23 会議室

論題： *Inferring the Effects of Vertical Integration from Entry Games* （参入ゲームの計量経済モデルを用いた垂直統合の分析）

氏名： 久保研介（開発研究センター）

セミナー未満の会

時間と場所： 2010年6月23日（水） 12時30分から13時30分

テーマ： 『垂直統合と垂直分裂：どちらが効率的？』

日時： 6月24日（木曜日） 12時半

場所： C23 会議室

論題： Two-sided Platform の視点からみた中国の流通システム

氏名： 丁可（地域研究センター）

日時： 7月1日（木曜日） 12時半

場所： C23 会議室

論題： どうやって中国の産業は発展してきたか？

氏名： 渡邊真理子（地域研究センター）

日時： 7 月 8 日（木曜日） 12 時半

場所： C23 会議室

論題： 新稲作技術（SRI）の採用決定因と経済インパクト：インドネシア農村の事例

氏名： 高橋和志（開発研究センター）

日時： 7 月 15 日（木曜日） 12 時半

場所： C23 会議室

論題： 研究レビュー： インサイダー・エコノメトリックスが明らかにしてきたこと

氏名： 町北朋洋（新領域研究センター）

日時： 7 月 29 日（木曜日） 12 時半

場所： C23 会議室

論題： *How inter-firm organisation adapts to new challenges: Organisational dynamics in the Vietnamese motorcycle industry*

氏名： 藤田麻衣（地域研究センター）

日時： 9 月 3 日（金曜日） 12 時半 - 13 時半

場所： C23 会議室

論題： *Capability Matrix: A Framework for Analyzing Capabilities in Global Value Chains*

氏名： 佐藤百合・藤田麻衣（地域研究センター）

日時： 10 月 14 日（木曜日） 12 時半 - 13 時半

場所： C23 会議室

論題： 中国農村の就業構造変化と農地流動化—浙江省奉化市の農家調査に基づく実証分析

氏名： 竇劔久俊（開発研究センター）

日時： 10 月 21 日（木曜日） 12 時半 - 13 時半

場所： C23 会議室

論題： 研究計画報告「後発国企業によるイノベーションのメカニズム：台湾 IT 機器産業

の分析」

氏名： 川上桃子（新領域研究センター）

Date: October 28 (Thu), 2010, **14:00-16:00**.

Venue: Room C23

Title: *Explaining Vertical Integration in the Generic Pharmaceutical Industry: Is There a Bandwagon Effect?*

Speaker: Kensuke Kubo (Development Studies Center)

日時： 12月2日（木曜日） 12時半 - 13時半

場所： C23 会議室

論題： 研究計画報告「ベトナム農村の工業集積をどうとらえるか：「閾値モデル」の拡張の可能性」

氏名： 坂田正三（地域研究センター）

日時： 12月9日（木曜日） 12時半 - 13時半

場所： C23 会議室

論題： 中東湾岸諸国通信企業の域内進出とその影響：経済学と経営学の間で

氏名： 齋藤純（地域研究センター）

日時： **1月14日（金曜日）** 12時半 - 13時半

場所： C23 会議室

論題： 研究計画報告「二輪車産業の市場競争と能力形成：インドネシアとベトナム部品企業に関するミクロ実証分析」

氏名： 佐藤百合・藤田麻衣・渡邊真理子（地域研究センター）・町北朋洋（新領域研究センター）

日時： 1月27日（木曜日） 12時半 - 13時半

場所： **C24 会議室**

論題： 「人口・資源大国の光と影：インドネシア経済成長をどう考えるか」

氏名： 佐藤百合（地域研究センター）

日時： 2月3日（木曜日） **12時15分 - 13時** （APL）

場所： C23 会議室

論題： 「経済のグローバル化が雇用の非正規化に与える影響：最近 10 年の、日本の製造業の経験」（佐藤仁志・経済産業研究所との共同研究）

氏名： 町北朋洋（新領域研究センター）